

JICAベトナム事務所 月報

第174号 (2024年2月号)
2024年2月29日発行

本月報に関するご意見、ご要望は
vt_oso_rep@jica.go.jpまでお送り下さい。

Website (日・越・英) :
<http://www.jica.go.jp/vietnam/vietnamese/index.html>

Facebook (越) :
<https://www.facebook.com/jicavietnam/>

発行 : JICA ベトナム事務所広報班

目次

プロジェクト活動

- ベトナムの消防・救助能力の強化に向けた技術協力を実施 3
- 日越両国の NGO 団体等実施機関向けに、事業の持続性確保に向けた参加型アプローチについての研修を開催 4
- 南部バリアブンタウ省でエコ工業団地促進プロジェクト産業共生セミナーを開催 5

イベント

- JICA・川崎フロンターレ連携事業「川崎フロンターレ算数ドリル」贈呈式および実践算数教室の実施 6
- 草の根技術協力事業「琵琶湖モデルを活用したハロン湾・カットバ島沿岸水域の適切な保全に向けた支援」の最終セミナー開催 7
- 循環経済に向けた廃棄物管理の推進に関するワークショップを開催 8

ベトナムの消防・救助能力の強化に向けた技術協力を実施

2024年1月15日、ハノイにおいて、国際協力機構(JICA)ベトナム事務所は、公安省の消防・救助救難警察局と共同で、技術協力プロジェクト「ベトナム消防・救助能力強化プロジェクト」のキックオフイベントを開催しました。

本プロジェクトは、ベトナムにおける消防・救助訓練活動の質を近代的・専門的な方法で向上させることを目的としています。

プロジェクトで実施される活動には、(1)消防および救助スキルのトレーニングに必要なプログラムと教科書の開発・改善、(2)消防・救助の将校・部隊の知識と能力を向上させるため技能訓練の実施、(3)日本での研修、が含まれます。

これにより、消防警察の将校と部隊の防火、消火、救助、救助に関する知識と技術が向上し、消防・救助救難警察が担当している責務をベトナムの実践に則して、迅速かつ効果的に対応できるようになることが期待されています。



高所救助の訓練

日越両国の NGO 団体等実施機関向けに、事業の持続性確保に向けた参加型アプローチについての研修を開催



フエ農林大学 Le Van An 講師による説明

2024年1月16日、JICA ベトナム事務所 NGO-JICA ジャパンデスクは「NGO 等向け研修会」を開催し、ベトナムにおいて JICA 草の根技術協力事業（以下、草の根技協）実施中の NGO 団体等実施機関の 14 名が参加しました。本研修会は、NGO 等と JICA との連携強化や草の根技協等の事業効果の向上を目的とし、今回は「事業終了後の活動継続・展開を見据えた参加型アプローチの活用」をテーマに実施いたしました。

参加者は、様々な受益者による参加型アプローチを事業へ如何に有効活用し課題解決につなげるのかをグループワーク形式で学んだほか、草の根技協終了後も住民主体でその成果や活動を継続的に実施している事例を通して、研修会テーマの理解を深めました。今後、様々な受益者を巻き込みながら効果的かつ持続可能な事業の実施や、事業終了後の成果の継続・展開が期待されています。

南部バリャブントウ省でエコ工業団地促進プロジェクト 産業共生セミナーを開催

JICA は、2024 年 1 月 23 日に、バリャブントウ省工業団地管理委員会 (BIZA) と共催で、同省のフォーミー3 特別工業団地にて、産業共生セミナーを開催しました。

同セミナーは、技術協力プロジェクト「バリャブントウ省環境配慮型及び IT 活用型モデル工業団地管理経営能力強化プロジェクト」の活動の一環として実施されたもので、2023 年 10 月より 4 年の期間で実施されています。

セミナーでは、モデル工業団地の一つとして選定されたフォーミー3 特別工業団地並びに入居企業、工業団地インフラサービス会社等が参加し、計画投資省経済区管理局による政令 35 号に示された手続を具体化する通達案の説明、JICA 専門家チームによる産業共生の事例紹介として北九州エコタウンの経験とその活用、並びに工業団地管理会社と入居企業が連携する実証事業の概要説明を行いました。



記念撮影

JICA・川崎フロンターレ連携事業「川崎フロンターレ算数ドリル」贈呈式および実践算数教室の実施



算数ドリル贈呈

1月25日に、JICA および川崎フロンターレは、ビンズオン省ベトイン第3小中学校に「川崎フロンターレ算数ドリル」300冊を贈呈し、これを記念して同校で贈呈式が行われました。

また、式典に続いて、川崎フロンターレによる「からだを使った算数教室」が行われ、同校の6年生約130名が参加しました。算数教室は26日にも同校の6年生を対象として行われ、両日併せて約250名の児童が参加しました。今回を皮切りとし、今後、同ドリルはベトナムの学校、コミュニティスペースなどに幅広く贈呈される予定です。

日本のプロサッカーチームが、他言語（ベトナム語）で算数ドリルといった教育コンテンツを作成するのは初めてです。ベトナムでも国民的スポーツであるサッカーを題材とした親しみやすい教材により、算数が苦手な児童の学習意欲増進、学力向上が期待されるほか、ベトナム国内だけでなく、日本国内のベトナム人児童にも本ドリルを提供することで、日本語での学習に難しさを抱える児童の学習サポートに役立ち、50万人を超える在日ベトナム人との多文化共生にも貢献が期待されています。

JICAは、今後も様々なパートナーと共創し、スポーツを通じた地域課題の解決や持続的な経済社会開発に貢献してまいります。

草の根技術協力事業「琵琶湖モデルを活用したハロン湾・カットバ島沿岸水域の適切な保全に向けた支援」の最終セミナー開催

2024年1月22日(月)、滋賀県及び本邦の関係機関、ハイフォン市天然資源環境局、カットハイ県人民委員会は、ハイフォン市カットバ島にて事業の総括となる最終セミナーを開催し、日越関係者約50名が参加しました。本事業では産官学民が連携し、ハロン湾・カットバ島沿岸の水環境保全の活動を行うことを目的に、2020年3月から2024年6月まで実施しています。

最終セミナーでは、滋賀県及び本邦の関係機関、環境モニタリングセンターが活動報告を行い、排水処理場施設の運用・管理に関するマニュアル及びモニタリングデータ制度管理ハンドブックの

作成、産官学民連携によるプラスチックゴミを活用したアクセサリ等商品の作成・販売等、様々な成果を確認しました。また、各種マニュアルやハンドブックの手交も行いました。

本事業終了後も協力活動が継続され、ハロン湾・カットバ島沿岸の水環境改善につながることを期待されます。

事業概要

https://www.jica.go.jp/Resource/partner/kusanone/country/ku57pq0000124o9y-att/vie_33_t.pdf



カットバ島の小中学生がプラスチックゴミ等で作成した作品

循環経済に向けた廃棄物管理の推進に関する ワークショップを開催



記念写真

1月23日、JICAとベトナム天然資源環境戦略政策研究所(ISPONRE)は、ベトナムにおける循環経済に向けた廃棄物管理の推進についてのワークショップを開催しました。

ベトナムでは急速な経済成長と都市化の進行によって廃棄物が急増しその対策が課題となっています。そこで、ベトナム政府は循環経済政策を推進するため、国家行動計画を策定することとなりました。

本ワークショップでは、JICA 調査団による情報収集調査結果や日本における家電リサイクルシステムについての取り組みを共有するとともに、関係者間で幅広い意見交換が行われました。

JICA は、循環経済に関する政策策定支援のため、引き続き協力していきます。